雲隠説

別 3
60
1

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』 請求記号 本別3-1

ガラス使用

開慶庵圖書部
平岡書館

雲隠　有ニ巻ノ名一無シ其ニ詞一義詰抄にあり

河　巻ノ名句無ヲ以テ其ニ事ヲ一ひかりかくれまひかし

といふるを云ふ

嘆　雲がくれとは人の逝去をいつるなり　万葉に人

の逝去乃うたへとじめえぬ命にしあれば

数(シキタヘ)の家より出て雲隠にしたまひつ　百傳

の岩根乃池にたゞ、鴨をかふのみとゝしてや雲

隠れるん　此事不可ニ勝(アゲテカソフ)一されば此巻雲隠

といふ名は源氏薨(コウ)しゆしくしるのみを

りて付る名ゝ隠居雲かくれ同るなり　源氏のみ

ならば幻(ヘボロ)と句宮との巻の号八ケ年の内

にあまたの人うせまふまゝを告此巻にこめ

岡本藏書記

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

雲隠と名付る事万葉の哥によれり

有名無実事天台の四門に譬之五河海

空假中の事有源氏物語中此物語作物

語なれハ空道也。又此延喜に著假諱也。

雲隠ハ中道也。釈尊入時の教と同シ此物語

示人意く又ハ十四帖皆亦空しき意とへ

又源氏雲隠之後浮橋迄によるまて以

見之ハ又亦有亦空之

此物語先書好色道終亦佛道之意可見

水波之譬有之。又云雲隠之事此物語中

貴人義色為無常称表情多之。自桐壺

至紫上既事盡了。故光源氏終焉不

定也。若書之者可言語道断也。又無紛氣

仍雲隠巻之中に譲之也。又云幻巻与此

巻之間九年なるべし。薫の年幻巻

まて五ツ六ツより十四歳まて九年之

愚案此晩花の説ハ河海花鳥乃両

抄をも合せ交へて考ふるに所ゝしるく

大かたかはりたる所なし。よつて河花の両抄

今まねてうつすに及ばずとつてくはしき細

流の雲隠乃沙汰は河海花鳥に委しき

よしあり。孟津抄の雲隠乃説は

たゞこの両抄ばかりを考へしるす

さればこゝに好事の学者此為になり

へまかさつらね侍り

一 河 雲隠れと名ばくるなり

此巻ハ本よりなし只名をもてそのふを
弱きなり此名題にて六条流ひかり隠れな
ふんしらくへ此詞伐く集にて数多あれ
ども万葉集に人の逝去しるを皆雲隠
きといへり

万一 弓削皇子薨時置始東人哥

大君は神にしましゆきばお海雲のいか
への下にかくれまひぬ

万三 大伴皇子被死時作哥

百傳 りつくの岩根の池に鳴鴨をそふのも

見てや雲隠れなん

万三 神亀六年左大臣長屋王賜死之時作哥

大君の見ことりしこゝぬかあらざの時には
あらねど雲隠れまして

万 天平七年新羅尼理願死去時大伴郎女悲
嘆作哥

とゞめえぬ命にしあれば数ぬの家より出
て雲がくれまきこのかたなじ作ることに
も此朝を 逝去のまゝにあらざれ

先ぐりあひて見しやそれもわかぬまに
雲がくれにし和ま乃月かれ

一 名ばかりを書て巻をえぬまま

天台所立四教 三藏教 通教 四門 有門空門非有非空門亦有亦
四教 別教
空門有門乃得道昆曇論空門明道ハ成實
論ニ明ラリ非有非空門ハ迦旃延經ニ説
亦有亦空門ハ昆動論ニ明ラリとゝげど
も此經論天竺ニとゞまりて漢土ニ持来
せず志りを大師有門空門の義ニより
ていまだ經論をもたざる因別二教を判
しまふ不思議そなり今の雲がくれの是
も作者の胸中にとゞ海りて世ニ傳ら
ずや如ニきん詮ともあり而六条院崩御を
あらはいはずしく此巻の名ニこめたり
後甚深ならずや凡上古名賢の中ニ終

義源氏ハ不知終と
ハ不可謂之此例不
當

のやうを人志しざるまし武内大臣以下を例
多し本朝神仙傳なとにも多くみえ
たり又ぬきの君乃先達業平朝臣芳野
川の河上乃窟てんの川ニ入定しまうに
し彼所の縁起ニ見ゆとなく
六条院頓滅之事
黄帝の天にのがりしに比擬すると中古
の先達中をまり物がたりのありてニ所見な
し今案ときこゝろ宿木の巻ニハ墓大
物の詞ニ故院失ひて後二三年斗来に
世をそむきまひし遺戒ニも六条院ニ
もさしのぞく人の心ゆきめんかこなくなん

作りろといつ。世とのゞれく張濃流り
陽春しうみてとくうり。並雲りくれの
巻ととく一帖をうへもその巻中の久遊え
うりぐう。其間よ朱雀院無り文致仕大
臣大后鬢(ニゲ)黒(グロ)大后の下の人くを多うせられ
う。仍とて六条流ぐう数濃とつゞきて
みやび文無り多くの巻中将侍従とそくうり。ふ
れえ服あり。中将
みやく品ひ合とべて其弱いみ〳〵そのて
此巻々名のとをもそくうり。
詞あり〳〵六条院の暴(ヒウ)逆(カ)のまのとをべき

よりて雲陽れく名付作り。幻巻ふ
絵よ紙年の月をつゞけ。ぐう
院八数濃しうみをうの巻をうせうう
業明物よいや仍のまよ。もとひ給ふ二三年ぐうりさうの流よ
陽春しうみてとくうり。並雲りくれの
巻ととく一帖をうへもその巻中の久遊え
うりぐう。其間よ朱雀院無り文致仕大
臣大后鬢(ニゲ)黒(グロ)大后の下の人くを多うせられ
う。仍とて六条流ぐう数濃とつゞきて
みやび文無り多くの巻中将侍従とそくうり。ふ
れえ服あり。中将
みやく品ひ合とべて其弱いみ〳〵そのて
此巻々名のとをもそくうり。
詞あり〳〵六条院の暴(ヒウ)逆(カ)のまのとをべき

よりて雲陽れく名付作り。幻巻ふ
絵よ紙年の月をつゞけ。ぐう
院八数濃しうみをうの巻をうせうう
業明物よいや仍のまよ。もとひ給ふ二三年ぐうりさうの流よ
陽春しうみてとくうり。並雲りくれの
巻ととく一帖をうへもその巻中の久遊え
うりぐう。其間よ朱雀院無り文致仕大
臣大后鬢(ニゲ)黒(グロ)大后の下の人くを多うせられ
う。仍とて六条流ぐう数濃とつゞきて
みやび文無り多くの巻中将侍従とそくうり。ふ
れえ服あり。中将
みやく品ひ合とべて其弱いみ〳〵そのて
此巻々名のとをもそくうり。
詞あり〳〵六条院の暴(ヒウ)逆(カ)のまのとをべき

よりて雲陽れく名付作り。幻巻ふ
絵よ紙年の月をつゞけ。ぐう
院八数濃しうみをうの巻をうせうう
業明物よいや仍のまよ。もとひ給ふ二三年ぐうりさうの流よ
陽春しうみてとくうり。並雲りくれの
巻ととく一帖をうへもその巻中の久遊え
うりぐう。其間よ朱雀院無り文致仕大
臣大后鬢(ニゲ)黒(グロ)大后の下の人くを多うせられ
う。仍とて六条流ぐう数濃とつゞきて
みやび文無り多くの巻中将侍従とそくうり。ふ
れえ服あり。中将
みやく品ひ合とべて其弱いみ〳〵そのて
此巻々名のとをもそくうり。
詞あり〳〵六条院の暴(ヒウ)逆(カ)のまのとをべき

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

義毛詩第九
南陔ハ孝子相戒テ以養也
白華ハ孝子潔白也
華黍ハ時和歳豊ニシテ空黍稷也有其義而无其辞也
由庚ハ万物得由其道也
崇丘ハ万物得極其高大也
田儀ハ万物之生各得其宜也

よさがの説は二三年源居してその後崩
清しまふすを此巻は詞あらざる次
へきこと柞此巻の名づけるて詞をもて如
まず天台の四教乃法門を例に引たれど
多代抱をとさへ地しけり俗書をもてい
たぐ毛詩の小雅の中に南陔白華々黍
由庚崇丘由儀の六篇ハ篇の名のみあり
て詞ハなし。是ハ逸詩といひてもとは詞を
しがらせたるべし。是によりて東廣微といひ
し人詞を作りて補亡の詩と名付て文
選の第十の巻に乃せたり。朱晦庵は笙
詩といひて樂曲の名なれば其の詞は

りとよりあるへりしが説と釈し侍りいかゝ海
篇の名乃ゑまでくその詞なきと同し
愚按細流乃雲源の所説は呼花の説
を畧しまへるに似たり。もとは白文巻の
端にしるされゆへは今ことにしるさず
義
薫自六篆至十三篆八ケ年のうち漏脱し
此九ケ年のうち可在雲源巻之中也。其故
ハ幻巻は九ヵ此巻ハ九七也。此中間に第九六
雲かくれといふ巻の部号を立て実なりハ
其巻を不書是則筆志の所術之
源氏一世之行状徳厚ク誉高ク才智人ニ勝
レ栄花世ニ超タリ。然レハ其身終之を横普

通ノ儀ヲ以テ不可符合也。司馬迁班固范
膵温公モ筆力不可及。縱或木食草衣隠
遁修行之儀雖如佛在世之時無其奇
特。若又現神変不思儀者。人不可信之或
入滅之時聖衆如星列紫臺ノ雲ヲ引テ親
来迎ノ相ヲ示シモソレハ目馴テ尋常ノ物
語ニ似タルヘシ。人夫悲ヲナシ五十二類悲號啼
泣ノ想ハ佛ノ涅槃ニ尽ヌレハ是亦事旧タリ。
若又登仙換骨シテ共形骸不留ト云トモ
頗可似虚誕依之同文取不及一言之処却
而盡善盡美者也
惣別此物語哀傷及数人桐壷更衣夕良

上葵上柏木六条御息所紫上大君等也
薄雲桐壷帝本ニナシ私入之ヲ
是等ニ皆事盡ヌレハ大方ノ筆力ニテハ不
可符合。左去此上ヲモ一廉ノ文章ヲ耀スベ
キ筆ハ式部ガ手ノ内ニ有トシルベシ。筆不及
メ文ヲ闕ストハ不可見。一切ノ事不言之処ニ
妙處アリト云事ヲ示ス義也。維摩一黙則
千言万答是也 猶河花之説唯花之説ニ云ヘリ
愚案ニ世ニ源氏物ニ六十帖といひ
ならつして只五十四帖あり。雲隠乃巻
名ばかりありて其詞をもしらず。定而
其中ニ如くめくらべし。花筆ニ名の妙術

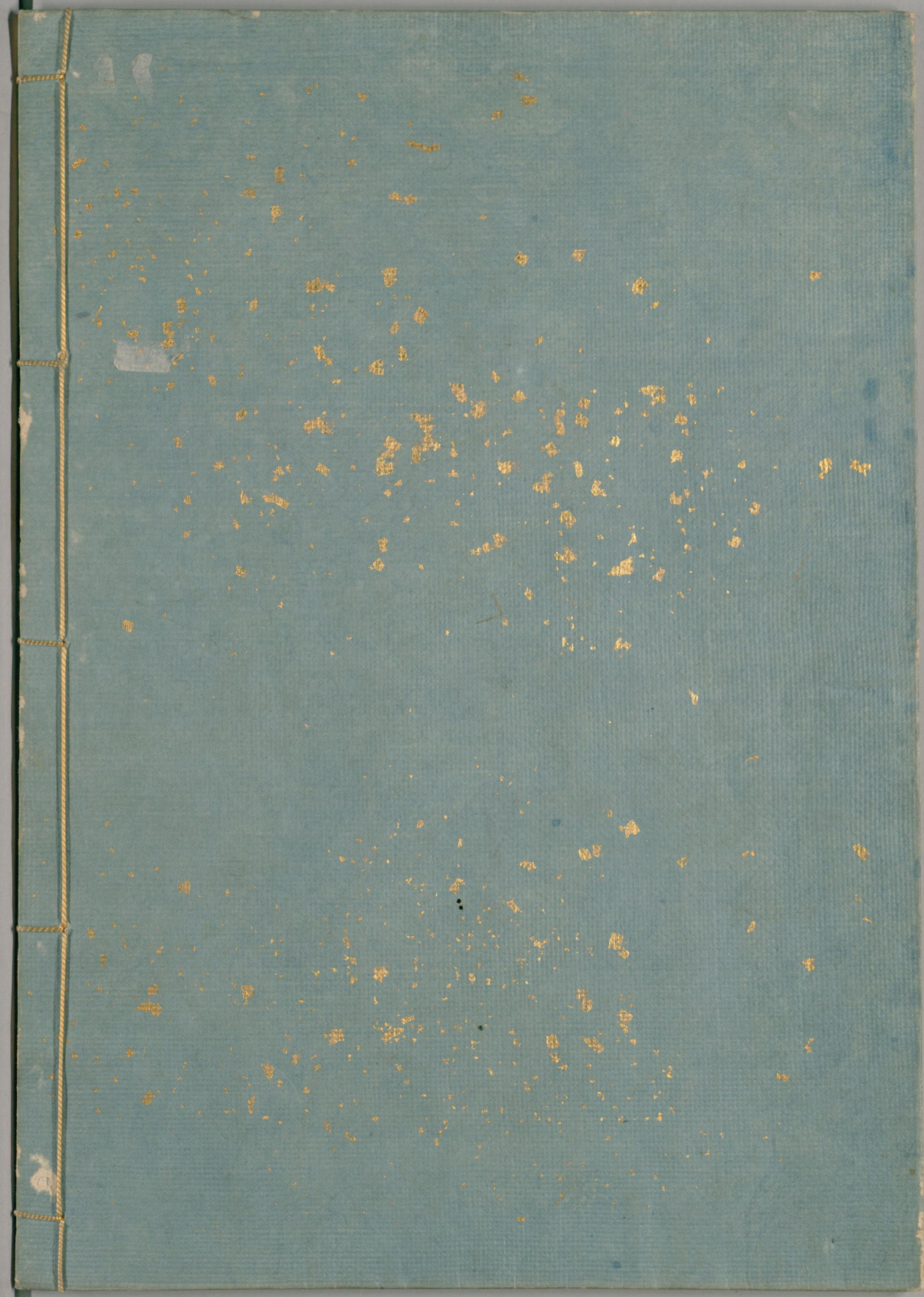
雲之雲なる由詰抄にしるされ年。しるり後人雲隠の書をなさるひ 様人
巣守 刺櫛 八橋 磯城野 ふ下などい
ふ書をくはへたり。六十帖の数を満し
めんとかや。是文称ふつくりかしこそ義
を亦詰なるし。桃花の系図乃なくにも
書の名づけしるしとうせまつりといへども
是詞とくハ一云も用ひまゐて。是卯の
詰抄一切にも沙法にもとらべされば
む信用にくらぶるべし。ことに此
抱語六十帖は天台の六十書に准ぜり。
是天台六十巻も止観に関あるまし

前にしるせり。されば紫式ア継此書
をもとして六十帖にえらしめまらぬ
ましられたるりや。此雲隠の八年此月
に光源氏朱雀院の崩御後仕大臣舞
黒大臣曽芳の等の薨。是卯女二宮の
三条宮にうつり給ふる。人々此安位
畢進のまゐるどそこだくのまゐこりれ
ぬ。是旨趣次ゝ乃書ゝに影響しり。
しこれる人々を律師行へ〳〵とて

別3
60
1

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『湖月抄』 請求記号 本別3-1

ガラス使用